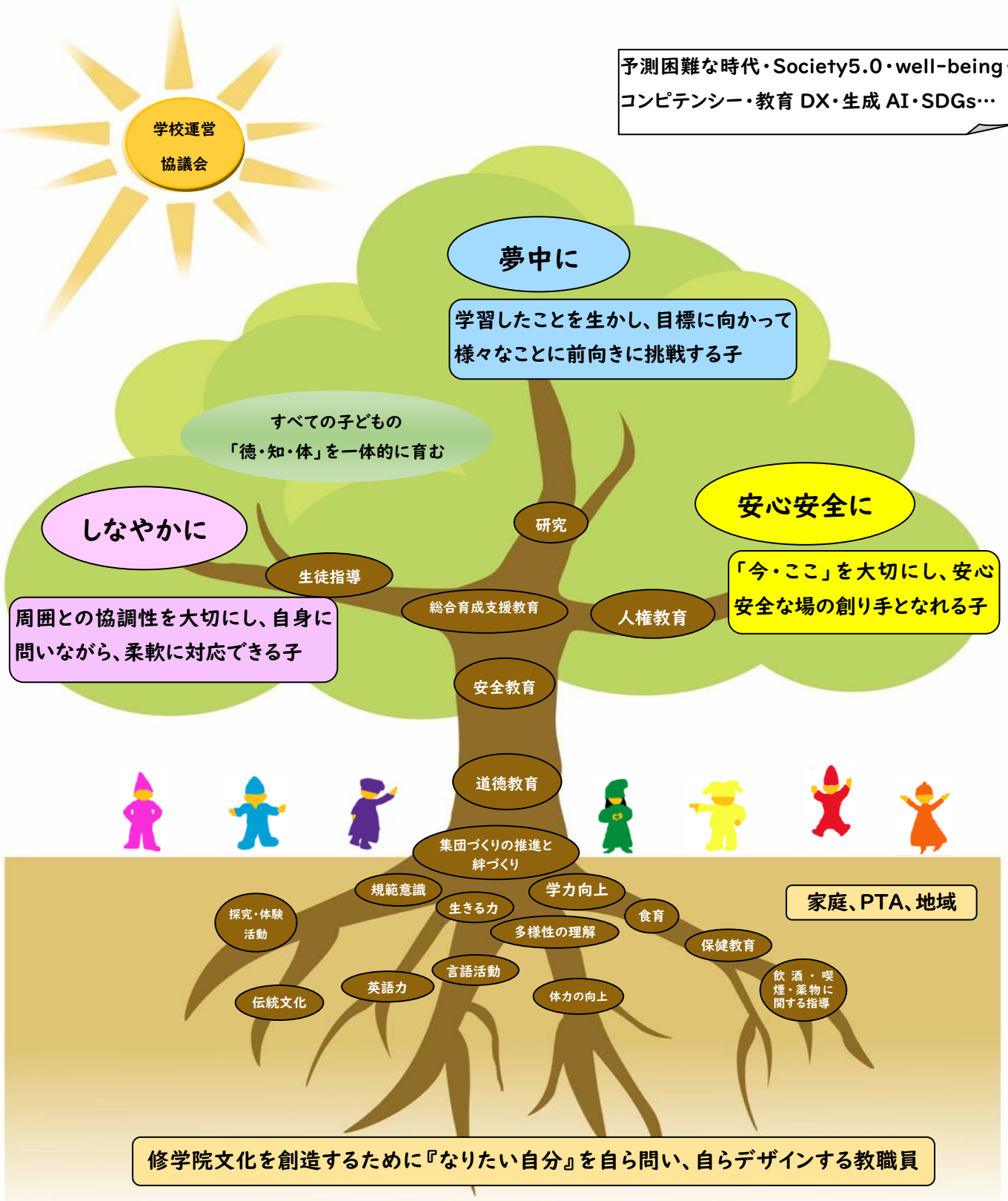


令和8年度京都市立修学院小学校 学校経営方針

目指す学校像 たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校

《学校教育目標》
「過去から学び、未来を展望し、今を大切に生きる子」の育成
～ しなやかに 夢中に 安心安全に ～

予測困難な時代・Society5.0・well-being・
コンピテンシー・教育 DX・生成 AI・SDGs…



たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校

学校教育目標

「過去から学び、未来を展望し、今を大切に生きる子」の育成

～しなやかに 夢中に 安心安全に～

変動性、不確実性、複雑性、曖昧性（VUCA）という言葉で表わされるように、将来の予測が困難な時代を我々は生きています。Society5.0、well-beingを実現できる社会、コンピテンシーそして教育DXなど様々な言葉が溢れ、大きな時代の転換期にある今、求められるのは新たな価値創造であり、新しい価値を生み出すのは「人」です。人と違う特性や興味こそが新しい価値創造の源泉であり、同質性・均質性を備えた一律一様の教育だけではなく、多様なすべての子供の可能性を引き出す教育への転換そしてSDGsを羅針盤に、「誰一人取り残さない」、多様性と包摂性を備えた教育に果敢に挑戦していくことが必要です。

上記のような教育課題、地域・家庭との連携を伴った教職員の教育活動は「際限がない」と思う状況であることも否定できません。しかし、「今・ここ」という枠で問いをもつことで学校現場でできることは自ずと見え、実践に向かうことができます。だから「今を大切に生きる」です。現在地を把握し、明るい未来を展望し、実践することでなりたい自分につなげていくことが修学院小学校の学校教育目標が求める姿です。毎日の教育活動の中で過去から学びを得て、向かう先（夢や希望）を展望して行動するイメージです。我々大人も同様です。以下に示す基本方針を本校教職員のバイブルとし、「しなやかに考えられたかな。夢中になれたかな。安心安全に過ごせたかな。」と子どもも教職員も振り返りながら自らに問うことを通して、向かう先に明るい展望をもって目を輝かせる毎日を過ごすことを大切にしてください。そして

たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校になるにはどうしたら良いだろう？
学校のコンセプトを大切にしながら、日常に良質な問いを充実させて進んでいきましょう。

I. 基本方針 ～学校経営方針の下に～

1. 目指す教職員像～子どもたちの本来もっているものを引き出すための土となる～
修学院文化を創造するために『なりたい自分』を自ら問い、自らデザインする教職員

※教職員ステージごとに自ら目指す姿を考える

子どもたちに正解のない問いに向き合う勇気を持たせるため、我々大人が正解のない課題に協働して挑む姿を見せる

教職員が学校文化を創造する 大切にしたいキーワード

<よりそい>

人間味 情熱 認める(褒める 叱るのも褒めるために) 大きな声は短く アンガーマネジメント
琴線に触れる 夢中にさせる 信じる 多様な視点を引き出す 正しさで責めない 貴賤なし
子どもの背景を想像 地域の良さ 自分の当たり前は偏見のコレクション 良さを発見
マルチトリートメント(不適切指導)をやめる 尊敬 信頼関係が先 解決志向 応援

<つとめ ひろがり>

自ら問いをもつ(主体性) 遊び心 予祝 自らを高める研鑽と振り返り(道徳の研究と修養)
学ぶ力を引き出す 一工夫 安全の知識を高める 不平不満愚痴をやめる ICT 変化
働き方改革(学年学級の見通し 時間を大切に) 素早い行動 生成 AI
応援し合う(仲間のためにできること) ウェルビーイング 社会に開かれた教育課程

<いのち つながり>

命を守り切る 人間関係 社会性 協力(力を合わせる 一人にしない) 折り合い 協働活動
連絡相談報告 組織の一員 安心安全の場の創造(片付け・掃除・シンプル) 家庭・地域・関係機関
電話応対(あいさつ) 小中一貫 小小・幼小連携 インクルーシブ

2. 目指す子ども像～人を喜ばせ、人が憩えるよりよい木に育つことを願って～
- (1) 周囲との協調性を大切にし、自身に問いながら、柔軟に対応できる子
 - (2) 学習したことを生かし、目標に向かって様々なことに前向きに挑戦する子
 - (3) 「今・ここ」を大切にし、安心安全な場の創り手となれる子

この姿を教職員が引き出し、見つけていく

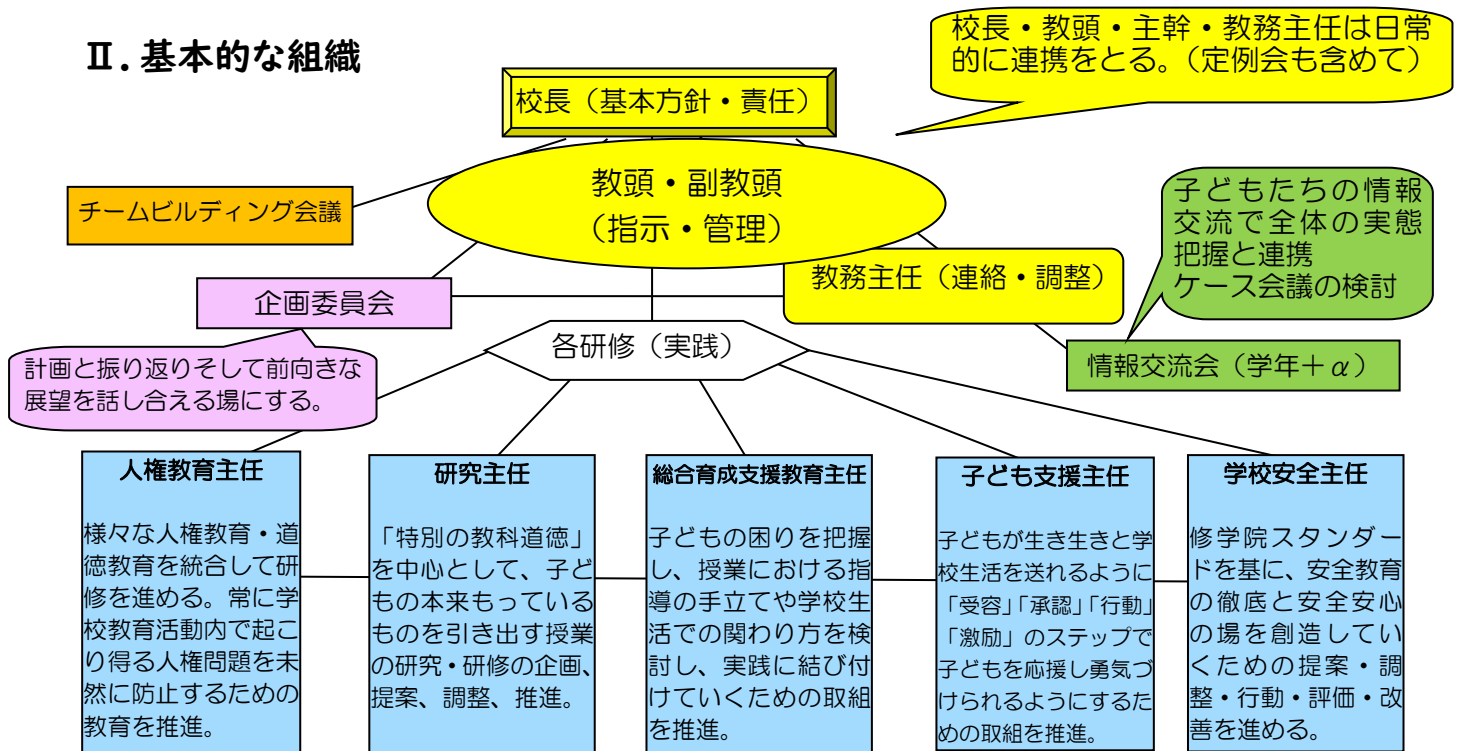
※育成を目指す資質・能力の重点 <学びに向かう力、人間性等>

学びをつないでよりよく生きるための最適な行動を考えたり、選択したりする力

「しなやかに」「夢中に」「安心安全に」 3つの徳・知・体を一体的に育むためのキーワード

問い探し 折り合い 歩み寄り みんなちがってみんない(違いは力になる) 自分の学年
 自分の学校 感謝する子・される子 多様に考える 夢中をはじめる 好きが理由 学力向上
 学習が「楽しい」から「面白い(自他のためになる)」へ 主体的・対話的で深い学び
 見通しをもつ 自学自習 未来を創造する(夢・希望) つながり 自己調整
 自他尊重(人が大好き) 身につけたものを使う できるようになったことを生かす
 家で話す(家庭との連携) 共に高め合う(仲間と共に) 学年・学級の学習集団 協調性
 人権文化の創り手 多様性の理解 学年を越えた学び 安心安全の場をつくる
 公共の精神(地域、宿泊、集団活動、望ましい生活習慣) あいさつ・掃除・作法(社会性)
 自己肯定感を高める 多面的、多角的な見方考え方 応援し合う 科学する

II. 基本的な組織



※各主任で決済が行えるものについては各主任が責任を持って決済を行う。

※5部会の主任は、学校全体で行えることと部会のメンバーで行えることを創造していく部会となるよう調整する。(解決志向 他人事をやめて我が事にする)

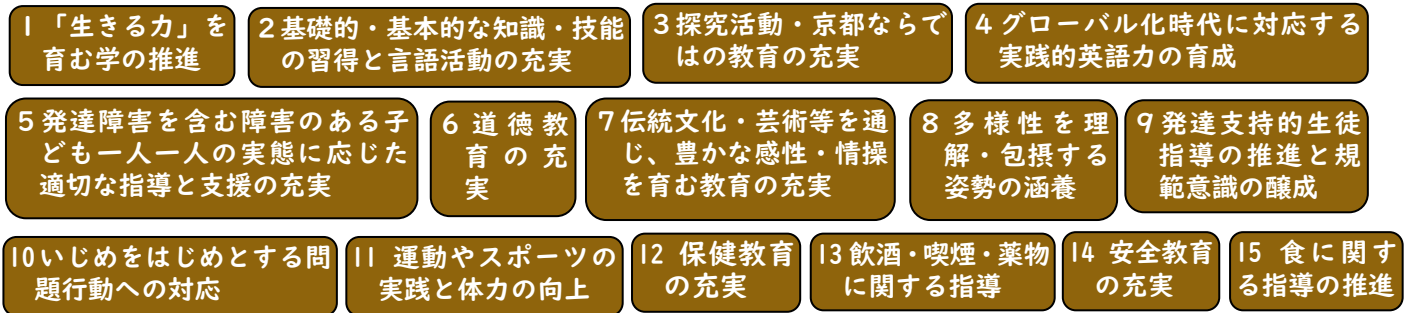
※行事予定や取組等の決済は管理職、日程調整は教務主任と行う。

※連絡・相談・報告を必ず行う。最後に報告です。

※それぞれが情報の発信を行い学校の取組についての説明責任を果たす。

Ⅲ 修学院小学校の教育活動の始点・視点・支点

「生きる力」を育む15の取組（京都市学校教育の重点）を参照



◇安全な教育環境整備を行い、安全に行動できる子どもを育むために、全教職員で修学院スタンダードの下に進める。

◇校内研究を道徳科として、心の教育をきっかけとし、徳・知・体を一体的に育むための授業実践を進める。（キーワード 授業研究・問いを大切に・自己調整）

◇私たちの学校を意識した学年チームでの協働。（456 年育成学級のチーム担任、123 年は協働体制を意識した教科担任、交換授業等、対話と協働で挑み続ける）

◇子どもたちが自己実現に向かって活動できるよう人権尊重を基盤とし、言葉を大切にしたい学校運営＜学年、学級経営・子ども支援を含む＞を進める。

（いじめはダメ絶対 SNSなど使い手の意識を高めることで被害や加害の危険を回避 LGBTQ や貧困など教職員の知識理解・指導力の向上 子どもが相談しやすい雰囲気づくり 規範意識 食育 ペットトーク）

◇保健安全に留意し、健康の保持増進、体力の向上に努める。

（感染症対策、食物アレルギー対応、保護者との連携 全教職員が共通認識 健康の保持増進や望ましい生活習慣の実践、飲酒・喫煙をはじめ、薬物乱用等についての正しい知識と危険回避を発達段階に応じて指導 警察との連携 安全に配慮した教育活動）

◇学校教育目標を踏まえ、カリキュラムマネジメントの視点の下、実践を進める。

（ICT 活用 ミライシード等 GIGA 端末の積極的活用 教科を横断・統合した取組 英語力の育成 自分時間の活用方法を創造する PDCA サイクル 学びの質を重視 問いを大切にしたい探究的な学習 バランスよく実践された中での学力向上）

◇教育者としての職責を自覚した働き方改革の推進＜他の誰かがやる≠削減＞

（指導時間内での指導 生成 AI の活用 保護者への連絡は良さとともに指導事項の共有指導が入りやすくなる状態 時間の使い方 相手の時間を意識 欠員は全教職員でサポート 保護者の連絡は 18 時まで 集中職員会議による見通し 事前資料周知と確認 ペーパーレスと紙ベース 会議研修終了時刻 16 時 45 分を限度）

◇校種間連携・接続の推進

（小中一貫教育は中学校区を基盤 子どもの引継ぎ情報交換等 共通の教育目標を設定 9 年間を見通した教育 小小連携 保幼小接続「架け橋プログラム」に関しては校区にある聖水保育園・修学院保育園を中心に連携）

- ◇「困り」を抱える子どもに対する支援と UD 環境整備、合理的配慮
 - ・ SC と SSW の効果的な活用、連絡相談報告
 - ・ 学年交流会で検討されたケース会議（通級指導担当者との連携、効果的な指導を検討する等）
 - ・ 担任、担当を窓口として、家庭と共通理解を進める。
 - ・ 不登校児童については家庭や外部機関との連携等により、適切な登校刺激を促す。
 - ・ 虐待は、早期発見に努め、疑いがある場合は、児童相談所との連携を進める。
 - ・ 子どもや保護者の願いと一人一人の教育的ニーズに応じた就学・教育支援を、保護者や関係機関（児童相談所や区役所はぐくみ室、「育」支援センター、警察、医療などの連携その都度管理職へ連絡相談報告）と連携して取り組む。
 - ・ 外国人児童の国の文化や習慣を尊重するとともに、その実態に寛容な態度を育む。また、日本語指導については、外国人児童の授業へのソフトランディングを視野に入れ、担任、担当と連携して進める。さらに母語支援員の有効活用を図る。
- ◇「社会に開かれた教育課程」の下、スクールコミュニティを目指した保護者・地域と連携・協働した取組の推進。（中校舎を地域の拠点とする）
 - ・ 学校運営協議会との連携を強化し、学校・家庭・地域の協働活動も視野に入れる。
 - ・ 全教職員で校長室だより・学校だより等の広報を進めるとともに、ホームページやすぐーの掲載も進め、学校生活の透明性をより一層進める。（HP は、個人情報保護の観点を重要視 発信責任は「学年主任 教務主任」）
 - ・ P T A（協力関係・健全育成サポートのための任意団体）との連携し、教育活動の充実を図る。
 - ・ 学校評価に関わる子どもはぐくみアンケートについては、年 2 回実施し、学校教育の参考とする。結果は、学校運営協議会において分析し、公表する。

<研究指定について（令和 8 年度）>

文部科学省「生成 AI パイロット校」

京都市「校務 DX 推進指定校事業」

京都市「学校運営協議会推進事業（推進型・先導型）」

【備 考】（休日等に学校教育を支えている地域行事・京都市の取組等）

- ◇PTA 行事：代表者会議 10月…PTA 主催の取組 その他 家庭教育学級
- ◇諸行事：リレーカーニバル 愛のパレード（11月修学院中学校吹奏楽部と連携）
- ◇地域行事：5月…祭礼 8月…夏まつり 10月…区民運動会 11月…音羽川を美しくする会
- ◇その他 8月、3月…同窓会築山清掃 3月…総合防災訓練 学校運営協議会主催行事
- ◇6年生陸上等関係：10月陸上・持久走記録会、2月京キッズ RUN における引率、役員等